

IV. 考察

本研究では、競技系スポーツの実施動向を明らかにするために、(公財)日本オリンピック委員会加盟の競技種目の中で、成人と青少年の実施率が高い13種目を選び、実施率や実施希望率(ニーズ)の経年データを集計・分析した。

対象種目における「年1回以上」「週1回以上」の実施人口の推移をみると、2000年から2010年にかけての10年間で、成人では多くの種目で減少傾向にあることが示された。総務省統計局「社会生活基本調査」(2006)によると、15歳以上における過去20年間のスポーツの種類別行動者率は全体的に低下傾向にあることが明らかとなっている。本研究結果と社会生活基本調査との差異を確認するため、比較可能な2006年調査の10種目について、20歳以上の成人に限定し、社会生活基本調査データの再集計を試みた。いずれの種目においても本研究結果との間に大きな違いはみられず、多くの種目で実施者は減少している実態が示された。

文部科学省「スポーツ基本計画」(2011)では、「成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(65%程度)、週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人(30%程度)となること」を目標としている。前の「スポーツ振興基本計画」期間中(2000~2010年)に実施された内閣府調査において、週1回以上のスポーツ実施率が2000年の37.2%から2009年の45.3%へと上昇したことから、高い目標が掲げられた。

SSF「スポーツ活動に関する全国調査」でも、成人の週1回の運動・スポーツ実施率は51.4%から59.0%に上昇している。ところが、今回対象とした13種目の分析では、週1回以上の実施率が伸びているのはサッカーのみで、その他の種目では実施率は減少または横ばいとなっている。種目を限定せず、調査で対象としたすべての運動・スポーツをみると、10年間に実施率を伸ばしているのは、主に「ウォーキング」や「筋力トレーニング」「ジョギング・ランニング」などの「運動(エクササイズ)」系の種目であった。これは、運動・スポーツ実施率の上昇が、競技系の「スポーツ」種目ではなく、個人で行われる傾向のある「運動」系種目によってもたらされていることを示している(図I)。健康志向の高まりを背景とした運動実施者の増加はもちろん喜ばしい。問題なのは、こうした運動系種目の伸びに隠れて、競技系スポーツ実施者の減少の実態が放置されてきたことである。

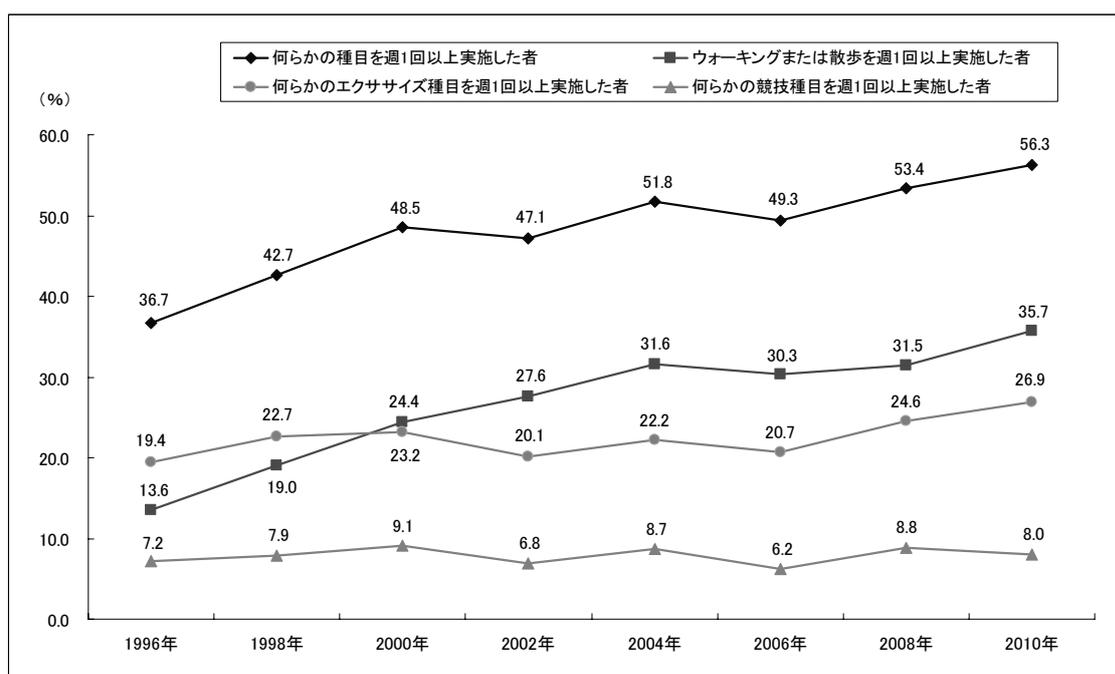
国の新たなスポーツ実施率の目標が、これまでと同様に運動系種目の普及に期待するのか、停滞している競技系スポーツ種目の伸びを目指すのか、スポーツ基本計画には明示されていないが、2000年からの旧計画の検証に基づいて、競技系スポーツの振興に重点をおいた施策が盛り込まれた形跡はない。今のままでは多くの競技系スポーツの実施率の減少傾向を増加に転じるのは難しいと思われる。

各種目の実施率を実施頻度別にみると、2010年における成人の「年1回以上」の実施率の上位は「ボウリング」「ゴルフ(コース)」「水泳」「バドミントン」「登山」であるのに対し、「月2回以上」では「水泳」「ゴルフ(コース)」「テニス(硬式)」「サッカー」「野球」

となり、さらに「週1回以上」では、「水泳」「バレーボール」「テニス（硬式）」「野球」「バドミントン」「サッカー」となる（表Ⅳ）。不定期な参加者が多いボウリングや登山もあれば、週1回以上の実施者が3分の1を超えるバレーボールや硬式テニスもあり、実施頻度により順位は変動する。これは、種目ごとのスポーツライフの多様性を示しており、理想となる「定期的」な実施頻度は、種目や実施者を取りまく環境によって異なると考えられる。

スポーツ政策の目標は、国民の豊かなスポーツライフの実現を図る目安となるべきである。内容を問わない運動・スポーツ実施頻度の量的目標が果たして適切であろうか。明確な数値目標やエビデンスに基づく政策が求められる今だからこそ、国は、国民に理解が得られる「豊かなスポーツライフ像」を性別や年代も考慮して提示し、その実現のために具体的な施策を用意しなければならない。減少傾向にある多くのスポーツ種目の実施者や実施希望者の増加は、国のスポーツ政策の最優先課題といえるだろう。

図Ⅰ 運動・スポーツ種目別にみた週1回以上実施者（成人）の推移



注1 エクササイズ種目：エアロビックダンス、筋力トレーニング、サイクリング、ジョギング・ランニング、水泳、ヨガ、体操（軽い体操、ラジオ体操など）
 注2 競技種目：空手、剣道、硬式テニス、サッカー、社交ダンス（ダンススポーツ）、柔道、ソフトテニス、ソフトバレー、ソフトボール、卓球、バスケットボール、バレーボール、フットサル、野球
 笹川スポーツ財団「スポーツ白書」

表Ⅳ 頻度別にみた実施人口上位5種目（2010年調査）

		(万人)				
順位	年1回以上	実施人口	月2回以上	実施人口	週1回以上	実施人口
1	ボウリング	1,381	水泳	286	水泳	213
2	ゴルフ(コース)	934	ゴルフ(コース)	270	バレーボール	145
3	水泳	742	テニス(硬式)	192	テニス(硬式)	140
4	バドミントン	701	サッカー	182	野球	119
5	登山	509	野球	182	バドミントン	104
					サッカー	104

笹川スポーツ財団「スポーツ活動に関する全国調査」(2010)